

隠岐国 海士町の『島まるごと人づくり』

海士町は平成19年を、「人づくり元年」として、地域の未来を支える人間力あふれる人づくりに取り組んでいます。人間力とは、社会が大きく変化していく中で、「自ら価値を創りだし、地域社会が今後も持続発展していくための力」であると同時に、「これからの社会において、一人ひとりが自己実現と社会貢献を果たしながら充実した人生を生きていくために必要な力」です。

海士町では、この人間力の育成を共通の指針として、地域・家庭・学校が連携と協働し、島まるごと人づくりに取り組んでいます。

子どもたちは、社会の未来です。子どもたちとともに、大人と社会がともに進化する海士町の取り組みに、未来の教育と社会の創り方を学びます。

日時: 2010年12月5日(日) 13:30~17:00 [受付開始:13:00]

会場: 日本教育大学院大学 2階大教室 <地図> <http://www.kyoiku-u.jp/contact.html>

主催: 日本教育大学院大学 共催: (株)栄光 / (株)エデュケーショナルネットワーク

協力: 島根県隠岐国 海士町

■プログラム

◎13:30-14:00	海士町の紹介	吉元 操、岩本 悠
◎14:00-15:00	島まるごと人づくり	岩本 悠
◎15:10-16:10	島前高校魅力化プロジェクト	豊田庄吾、岩本 悠、藤岡慎二
◎16:10-17:00	総括&リフレクション	

■講演者

○吉元 操 (島前高校魅力化プロジェクト担当課長、海士町財政課長)

海士町生まれ、海士町育ち。隠岐島前高校卒業。大学卒業後海士町役場に勤務。

主に財政畑で勤務。隠岐島前任意合併協議会事務局長、財政課長を歴任し、「攻め」と「守り」の海士町自立促進プランの策定と実施に携わる。

平成17年度から3課(財政課、健康福祉課、教育委員会)の横串「人間力推進プロジェクト」のリーダーまた、教育委員会教育課長として人間力溢れる人づくりを推進する。

現在は、島の最重要課題である島前高校の魅力化プロジェクトを担当している。

○豊田庄吾 (島前高校魅力化推進協議会委員)

人材育成会社ウィル・シードにて学校教育部門の責任者として、社会人基礎力や起業家教育、キャリア教育に関する出前授業を7000人の児童・生徒に実施。社会人向けには、官庁・自治体・大手企業にてビジネススキルの研修講師も行う。現在は島前に移住し、学校連携型公営塾のセンター長を務める一方、高校の外部講師としてキャリア教育・学習意欲向上などの授業も行う。

○岩本 悠

学生時代に一年間アジア・アフリカ20カ国の地域開発の現場を巡る。帰国後、その体験記『流学日記』を出版。またその印税を使いアフガニスタンに学校をつくる。

幼稚園、小、中、高校の教員免許を取得し卒業後、ソニーで人材育成・組織開発・社会貢献事業に携わる傍ら、途上国の教育支援や開発教育、キャリア教育の取り組みを推進。2006年、日本海の島 海士町に移住。島の高校を中心に新しい地域教育と学校のモデルづくりに取り組む。

○藤岡慎二 (島前高校魅力化推進協議会委員)

慶應義塾大学修士課程修了。自己発見のキャリア教育・社会人基礎力・学習意欲向上、推薦AO入試を専門に、大手予備校やハーバード大学進学塾「Route H」などで小学生から社会人まで14年の指導歴を持つ。ベネッセコーポレーションの新商品開発のアドバイザーも務め現在は島前に移住し、学校連携型公営塾で指導を行う一方、高校の外部講師として、地域起業家育成などの授業も行う。

大学でも社会人基礎力を中心に初年次教育から関わっている。



■ 隠岐國 海士町とは

日本海の島根半島沖合約60Kmlに浮かぶ隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「海士町」といい1島1町の小さな島(面積33.51km²、周囲89.1km)。対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選(天川の水)に選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島。

奈良時代から遠流の島として遣唐副使の小野篁をはじめ、承久の乱(1221年)に敗れ、ご配流の身となられた後鳥羽上皇は、在島19年余この島で生涯を終えられ、島民の畏敬の念はいまなお深い。

明治の文豪小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、隠岐旅行の際「菱浦港」を最も気に入り8日間も滞在され、小説「知られざる日本の面影～伯耆から隠岐へ」の中に著しています。

(海士町公式ウェブサイト<http://www.town.ama.shimane.jp/index.html>より)

■ 島の幸福論

「島の幸福論」は、2009年3月にスタートした第四次海士町総合振興計画です。

「島の幸福論」には、住民の「自分たちの島は自ら築く」という挑戦の意志と、一人ひとりが、足元から小さな幸福を積み上げ、「海士らしい笑顔の追求」をしようという想いが込められています。

「島の幸福論」は2010年度の(財)日本産業デザイン振興会 グッドデザイン賞を受賞しました。生活者の視点から課題を抽出し、「海士町が今後10年どこに向かい、何をすべきか？」がわかり易くまとめられています。これまでにない、元気なまちづくりに繋がる明快な地域づくり手法論である点が高く評価されました。



■ 海士町の取組みがマスコミで紹介されました！

○2010年5月24日

テレビ東京 カンプリア宮殿でCAS冷凍技術を活用して田舎の一次産業の復活を目指す海士町の(株)アビーの取組みが紹介されました。

○2010年2月10日

JB Pressに「なぜか勝ち組若者が移住してくる離島」としてとりあげられました。

○2007年6月

山内町長が海士町の取組みに関する本を出版致しました。島の試みの中に、現代日本が直面するさまざまな課題を解決するためのヒントが隠されています。『離島発 生き残るための10の戦略』生活人新書、日本放送出版協会 山内道夫(著)。

■ お申込方法 お申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込下さい。

お申込先: FAX 03-3230-2810

参加費用: 無料

お申込締切日: 11月26日(金)

定員: 120名 * 定員になり次第、受付終了となります。

お問合せ: 日本教育大学大学院事務局

〒102-0084 東京都千代田区二番町8-2

TEL 03-3237-1811 担当: 大槻・島野



特別企画 教育と社会の未来 海士町の『島まるごと人づくり』参加お申込書

御所属			
フリガナ		フリガナ	
御芳名	役職()	御芳名	役職()
T E L		F A X	
代表者E-mail			

(個人情報の取り扱いについて) ご記入いただきました個人情報は、弊学が厳重に管理し、本セミナーの資料・受講票の送付及び今後のセミナー開催のご案内送付にのみ使用いたします。個人情報の開示・削除・訂正及び利用提供の拒否請求をご希望の方は、弊学までご連絡ください。以上ご同意の上、お申込みをお願いいたします。